

3月1日（日）に梁川高校を卒業された皆さん、いかがお過ごしでしょうか。4月からの生活に対する期待と不安が入り混じった日々を過ごしているのだろうか。新型コロナウイルス感染症対策として、不要な外出を控えているのだろうか。家にいると、あれこれと考えてしまい、心配なことが増えていってはいないだろうか。

就職する皆さんは、予定通りそれぞれの事業所で勤務をスタートさせることができる状況にあるだろうか。大学や短期大学、専門学校に進む皆さんの入学式やオリエンテーション等も行われるのだろうか。

私の娘も皆さんと同様に3月1日（日）に高等学校を卒業した。ただし、卒業式は行われなかった。各教室で担任の先生から卒業証書をいただいただけだった。在校生は登校していないため、部活動の後輩たちにも会えずに終わった。後輩や顧問の先生、コーチの方からの色紙や卒業記念に関わるものは、卒業生一人一人に紙袋が用意され、部室に置かれてあった。

毎年、卒業式の前日に行っていた部活動の3年生を送る会も中止となった。ここ数年は、この会の中で、卒業する3年生一人一人の写真がスライドとして映し出されていた。流れるBGMとともにその写真スライドを見るのがよかった。

今年はそのスライドもないのだなと思って諦めていた。すると、紙袋の中から1枚のDVDが出てきた。本来であれば、3年生を送る会で使われるものだった。早速、家族で見てみた。例年以上に素晴らしいものだった。3年生を送る会がなくなってしまったにもかかわらず、卒業生のためにとDVDを制作していただいたのである。加えて会の次第や参加者名簿などがある要項も袋の中から出てきた。数日前に中止となったので、既に要項は出来上がっていたのかもしれない。あるいは、これも卒業生のためにと用意してくれたのかもしれない。

紙袋の中には、後輩の皆さんとその保護者の皆さんの“心”が入っていたのである。娘はDVDを自分のスマホに取り込んだ。いつでも見られるようにするためであろう。妻は、DVDを見ながらボロボロ泣いていた。この3年間の様々な思いが溢れるように出てしまったのだろう。

以上が我が家のケースだが、どの高校の3年生の場合も、多かれ少なかれ同じようなドラマがあったにちがいない。色紙にしろ、DVDにしろ、会の要項にしろ、形としてずっと残る。そして何よりも写真はずっと残るし、そのときのそのときにしか見せない表情が写し出されている。その瞬間が切り取られている。

娘が入学する大学の入学式は、案の定、中止となった。入学する前に行われるはずだった英語の試験は、自宅でパソコンを使って入力する形式になった。新入生説明会や各種オリエンテーションもどんどん中止となっている。他にもホームページを見ると、「現在、検討中です」の文字が並ぶ。

高校や大学だけでなく、様々な場所、とりわけ人が集まるところでは、日々、国や県の方針、感染状況、会やイベント等のねらいなどすべての要素を勘案して、今出せるベストのものを考えている。出した答えがベストだったのかどうかは、きっと後になってからわかることである。

たとえ入学式がなくなっても、梁川高校だけでなく他の高校の卒業生一人一人の新たなスタートが、少しでも心に刻まれるものになるよう祈るばかりである。梁川高校の入学式は幸い実施できる状況にある。梁川高校にとって最後の卒業生となる新年度の入学生である。人数の制限や時間の短縮があったとしても、“心”が感じられる式にしたい。